

NEWSLETTER

Golden Ring



ITC-J COUNCIL No.7 Vol.31 No.3 Jun. 2019



大山北壁

カウンスルNo.7会長メッセージ

ITC-J 第37期テーマ

継承と創造 Succeed and Create

カウンスルNo.7 第31期テーマ

ビジョンとパッションを持って、あなたのミッションを



会長 竹内ひとみ

今期最後のカウンスル会合を迎え、カウンスル会長として、また会員の一人として、この1年を振り返る時期となりました。より良い学びの機会を提供するために、役員会としてカウンスル運営に励み、まもなく1年になろうとしています。会員の皆様も、3回のカウンスル会合そして毎月のクラブ例会に出席し、自己研鑽にはげみ切磋琢磨した1年だったことと思います。「コミュニケーション」そして「リーダーシップ」を学ぶという私たちの永遠のテーマを、様々な側面から考えた1年でした。その成果を振り返り、何か一つでも自分の変化を見つけたら、自分で自分を褒めてあげましょう。

コミュニケーションを学ぶITC-Jのメンバーとして、ここであらためてコミュニケーションとは何か、についてもう一度考えてみたいと思います。コミュニケーション能力とは、もともとは言語学の分野で使われた学術的な用語でした。しかし、今や私たちの日常生活の中で一般的に広く使われています。相手の言っていることを理解し、自分の考えを相手に伝えるといった意志疎通や自己表現ができる能力はコミュニケーションについて考える上での大前提です。さらにそれに加えて、言葉以外の要素（たとえば、様々な表情やその場の雰囲気など）から相手の状況や気持ち、また相手が訴えたいことを推察する能力もコミュニケーションには必要とされることです。

今年度を締めくくる第3回会合では、言葉以外の要素から、どのようなメッセージを受け取り、相手が何を伝えようとしているかを読み取る技術を考えてみたいと思います。指画家で米子在住の濱田珠鳳先生をお招きし、10本の指に魂を込めて気迫で伝える絵をご覧ください。言葉以外の要素から私たちは、何を読み取ることができるでしょうか。

今期は、3回の会合を鳥取、出雲、米子で開催いたしました。鳥取クラブ、出雲クラブ、米子クラブの皆様には、担当クラブとして会合の準備にご尽力いただきましたことにお礼を申し上げます。そして、会合に参加し、またゲストをお誘いいただきました全会員の皆様方のご協力に感謝いたします。

クラブ間交流プログラム

鳥取クラブ



鳥取クラブは今期12月例会及び5月例会をクラブ間交流プログラムとした。

12月例会プログラムは28名のゲストを迎えて、郷土史家(古文書)入江宜明氏による「暦と季節の移ろい」の講演を開催。大自然の営みと共にある暮らしの中で暦は生まれ、やがて日月の運行、星の観測等で正確な暦が現れた等、暦の歴史や用語の変遷を、詳細な資料と豊富な語彙力を以て教授された。暦法の形、十干十二支、二十四節気などの言葉を通して、暦という不思議な世界が眼前に広がってくるようであった。

5月例会は18名のゲストを迎えて、井上ドミニク会員の「気とは何か・・・中国から日本へ、そしてフランスへ・・・」と題してのプレゼンテーションを。氏は1974年来日、EU東京代表部報道室長等の仕事の合間に学んだ気功太極拳に魅了され資格を取得。2006年フランスに帰国後、本格的に大学で解剖学・生理学を専攻、気功と共に指圧道、整体のキャリアを積み指導者の道を歩む。2015年再来日後鳥取にて気功太極拳の講師として活躍中。この日は長年の研鑽の成果を惜しみなく伝授された。美しい姿で展開される気功の実技、言葉以上に伝わる気迫にすっかり魅了されて心も体も熱くなった。

第二副会長 濱崎恭子



米子クラブ



米子クラブでは、クラブ間交流プログラムを12月例会と1月例会で開催しました。第1回は12月に臨床美術士の井澤ゆうか氏を講師にお招きし「臨床美術」について講演とアートワークを楽しみました。りんごを題材に、クレヨンを使って各自自由に好きな色を重ねて描きました。最後にサインをして自分だけのオリジナルなりんごの絵を完成させました。上手下手関係なく自分の好きな様に表現することの素晴らしさを教えて頂きました。



第2回は1月、米子クラブ岡崎祥子会員による「議事法の基本」を学びました。デモンストレーションとして参加者全員で4パターンの審議を行ってみました。その他にもクラブ例会での必要な基本となる事柄も教えて頂きました。事前にしっかりと準備され、わかり易く役に立つプログラムになっていました。



2回共、一般のゲストの方や他クラブの会員に沢山参加して頂き各講師と共に皆が一体となって学ぶことが出来ました。また沢山の方と交流を持つことが出来とても有意義な交流プログラムになりました。

第二副会長 藤山由起子

クラブ間交流プログラム

倉吉クラブ



12月講演「囲碁への招待」大津会長は、鳥取県女流棋士五段の県内一の実力者で、期首より今期のクラブ間交流プログラムは、石倉昇九段（囲碁棋士九段 東大客員教授）をお招きして講演会を開きたいという強い意思をお持ちでした。講演「囲碁への招待」、他クラブゲスト21名、外部ゲスト16名（大津会長のお弟子含）。「囲碁は難しそう」と先入観を持って臨んだが、紫式部 源氏物語「空

蝉」、清少納言 枕草子の中にも囲碁の記述があり紫式部は囲碁が強かった等と聞き、面白く思わず耳を傾けた。考える力、コミュニケーション等を高める効用もあるが、何よりも囲碁は70代、80代になっても強くなるという特性がある。高齢になっても囲碁を楽しんでおられる方は多く右脳をバランス良く使っているから、それが脳の老化防止につながる。お話をきいているうちに囲碁が身近なものに思えてきました。鳥取クラブのHさんは早速、主人に手ほどきを頼み、老後の楽しみにしようと弾んでお帰りになりました。



5月「グループ発表」は全会員を4つのグループに分け「挑戦」です。各リーダーの巧みな導きで、個々が輝き、楽しみながら仲間と交流し、更なる友情の絆を深めた。他クラブからのゲスト8名、一般ゲスト9名。

第二副会長 前田淳子



米子マンデークラブ



ITC-Jで「資格認証課程」がなくなった為、当クラブでは「評価」を毎例会取り入れています。その一環としてクラブ間交流に「評価コンテスト」を取り上げました。当日は、カウンスル内からゲスト14名をお迎えして、1人のスピーチに3人の評価者が評

価し、その出来栄を競いました。「評価」は本来人と比べるものではなく到達度評価が原則ですが、「評価コンテスト」につき相対評価の形式で行いました。「評価コンテスト」では、切り口の違った視点からの評価にスピーカーも聴衆も多角的な沢山の気づきが得られます。それが目的のひとつで、今回は3人の評価者でしたが、それでもスピーカー、聴衆、評価者それぞれの立場でコンテストの目標は、ある程度達成されたのではないかと感じられました。ただ他クラブの皆様が、このプログラムをどのように感じられ、評価されたのか等の感想が伺えれば、さらに向上へ繋げることが出来たのではないかとその思いが残りました。

第二副会長 清水典子



スピーカー



第一評価者



第二評価者



第三評価者



ジャッジ



出雲クラブ



クラブ間交流プログラム1回目、10月例会はオータムコンサートを開催しました。出雲は神在月、そして芸術の秋、一般ゲスト20名、他カウンスル15名のゲストをお迎えし、地元で音楽活動をされている3名の方を講師に、懐かしい日本の歌とピアノ演奏を楽しみました。特に多くの音楽家を輩出するなど音楽が盛んな出雲ならではの「心豊かに」の育みの教育でした。



2回目、5月例会のワークショップは「回転寿司」を行いました。初めての会員も多く、また35分という限られた時間でしたが、リーダーの事前の十分な準備と適切なリードによって、とてもスムーズに進みました。2重の輪の外と内をグループA、Bとし、説明資料で色分けするなどの工夫もあり、より機敏に回転出来たようです。テーマは「家族」「健康」、3分、2分、1分と同じ内容を要約しながらの即興スピーチの練習で、緊張感の中にも終始なごやかな笑いが絶えずとても楽しく効果的で充実した教育になりました。「回転寿司」は話し方、聞き方の優れた訓練方法の一つであることを実践によって改めて認識しました。 第二副会長 福代俊子



とっとり砂丘クラブ

第1回目は、講師にフリーアナウンサーとしてラジオのパーソナリティやリポーター、CMや動画のナレーション、イベントの司会などで幅広く活躍されている濱井丈栄氏をお迎えして、参加型の講演・ワークショップ『話し方と表現』を行いました。30名ものゲストの皆様も大変満足していただき、「とても楽しかった」「とても興味深い内容で、今後のクラブ活動に役に立つと思った」「さすが、プロ。学ぶことが多く役に
伝えることの大切さが
を後にされる皆様の
しい良い学びの
一同嬉しく思い
立った」「話すこと、相手に
良くわかった」と会場
お声に、ITC-Jら
場となり、会員
ました。



第2回目は、
～時間を感じる～
会員が担当致しました。
パワーポイントを使って紹介し、
懐かしさに触れ、会場に笑いが起こる場面もありました。自分自身を振り返る良い機会になったと思いました。

「Who are you?」
と題して、平尾静代
会員が幼い頃の写真を
その頃の思い出を発表致しま

第二副会長 松下恵美

クラブ会長会開催報告

ITC-JカウンスルNo.7

第31期クラブ会長会が
開催されました。その
模様をお知らせします。



2019年1月18日(金)、12時30分から15時まで、ANAクラウンプラザホテル米子において、カウンスルNo.7選出及び任命役員と所属6クラブ会長が出席し和やかな雰囲気のもと開催されました。クラブ会長から、①クラブの現状について②クラブの問題点や課題について③カウンスル活動についての疑問や提案について報告があり、その後質疑応答及び各クラブの問題・課題について活発な意見交換が行われました。

各クラブからの報告

<鳥取クラブ：播磨篤子会長>

- ・クラブが基本に忠実なため、新しいアイデアをいかに取り入れるかが難しい。もう少し自由な雰囲気が欲しいという声も一部にある。
- ・かつては会員30名だったが、現在は21名に減少した。いろいろな事情で実際に動ける人が少なく、一部の会員の負担が大きくなっている。
- ・新入会員を儀典委員会ではなく教育委員会に入れるという新しい試みをした。
- ・交流プログラムがあること、会合のお役の負担などを考えるとカウンスル会合は2回でよいという意見もある。
- ・教育とプログラム、広報と会員の各委員会の統合も検討中である。

<米子クラブ：野津寛美会長>

- ・会員は13名。上部レベルで積極的に活動する会員が多い。
- ・教育とプログラムを連動させてお役を減らす工夫をしている。
- ・入会者も退会者もなくメンバーがずっと固定されている。欠席者が少ない。変化はないかもしれないが全員が同じ目標に向かって活動している。
- ・会員増が一番の課題であることは分かっているがなかなか解決できない。ゲストを探すのも難しい。
- ・会員増について倉吉クラブの会員より、会員数の多いクラブでの取り組みなどの話を聞いたのは良い刺激になった。
- ・クラブ間交流2回というのは準備の面でも費用の面でも負担が大きい。

<倉吉クラブ：大津理恵会長>

- ・新しい会員が多い。(入会11年未満が14名) 積極的に委員長を任せるところ、意欲を持って取り組まれ、良い効果が見うけられた。
- ・県外から転居してきた新しい会員との、個人情報についてなどの感覚の違いをうまくフォローしなくてはならない。
- ・新しい会員にお役を割り振る場合の指針として資格認証のようなものが必要。
- ・「チャーター」以外にもITC-J歴30年近い経験豊かな会員につける敬称(例えばシニア)があると良い。

<米子マンデークラブ：三保聖諭子会長>

- ・会員17名で、新しく1名の新入会員を迎える。
- ・会員を増やすために、仕事を持つ人をどのようにゲストとして迎えるかが課題。
- ・クラブ間交流では外部の講師は迎えず、毎回会員による手作りのプログラムを提供している。

- ・ 委員会は広報と会員、プログラムと教育をひとつの委員会としている。教育とプログラムは連動して行っている。野外例会にも力を入れており、今期は美術館での「生前葬」をプログラムに取り入れた。
- ・ 楽しくやっている。

<出雲クラブ：下手泰子会長>

- ・ 会員は31名。長期欠席者が3～4名いるが、つながりを切らないように第二副会長を中心にフォローしている。7名のチャーターが適切に対応している。
- ・ 広報と渉外は委員会として一本化し、教育とプログラム委員会は委員長は別だがメンバーは同じくして活動している。
- ・ No.7で唯一の島根県ということで少し疎外感があり、距離的に交流プログラムにも参加しにくい。カウンスル会合も2回でよいのではという意見がある。
- ・ 目安や指針として資格認証のようなものが必要だと思う。
- ・ クラブ間交流は2回するより1回を充実させて行いたい。
- ・ 楽しくやっている。

<とっとり砂丘クラブ：松下節子会長>

- ・ 25周年の記念行事について、従来の形か新しい試みかをめぐり軋轢が生じた。新しいことにも柔軟に対応していきたい。
- ・ かなり前から教育とプログラムは一本化されている。今期、教育は基本的に全員参加型としている。急な欠席もあるが、事前に予測して対応する力が養われていると感じている。
- ・ 宣誓の先導、用語や委員会の説明など新しい会員に向けてのプログラム、教育に力を入れている。
- ・ 現在の問題点は、チャーターメンバーの高齢化と仕事を持つ会員への対応。長期欠席者からの退会希望を引き止めている状態。
- ・ 2回のクラブ間交流は多いと思う。近くのクラブ同士で合同例会を開く、カウンスル会合を2回にするなど新しい試みも良いのでは。

質疑応答および各クラブの問題・課題についての意見交換

- ・ クラブ間交流を2回にしたのは参加の機会と選択肢を増やす意図があった。期末に参加人数を集計して効果を検証する。（竹内会長）
- ・ 他カウンスルでは会員数の減少を補うために、「プログラム協力会員制度」を取り入れたり重複会員で対応したりしている。No.7の風土、土地柄には合わないかもしれないが、参考までに他カウンスルの紹介をした。（竹内会長）
- ・ クラブ間交流でゲストに来た方が2名入会することになった。（鳥取クラブ）
- ・ 新入会員をフォローできず退会させてしまったのが残念。（とっとり砂丘クラブ）
- ・ 「儀典」の重要性を新しい会員に伝えなければいけないが、チャーター会員の高齢化や会員の減少を考えると、強く指導することができない。（とっとり砂丘クラブ）
- ・ 仕事を持つ会員に合わせて委員会を夜に開いている。出席できなくてもLINEで情報を共有し合って話し合いを進めている。（米子マンデークラブ）
- ・ 状況に合わせて臨機応変に対応すればよいが、ITC-Jの基本は押さえておかなければいけない。（米子マンデークラブ）
- ・ 会員間の意識の差を埋め、チャーターメンバーの持つ知識と理念を上手に伝えていかなければいけない。
- ・ ITC-J全体で見るとカウンスル会合3回が4カウンスル、2回が4カウンスル。それぞれに長所と短所があるのでよく考えたい。
- ・ あらゆる連絡がメール配信となっているが、パソコンがITC-Jの必須となっている現状において、パソコンを使わない人への配慮が必要。
- ・ 人をひきつける何かがないと会員は増えない。
- ・ 資格認証とストラップについてはITC-Jに意見を伝える。（竹内会長）

Webサイト立ち上げ研修会の報告

去る2019年3月26日（火）米子コンベンションセンター会議室にて、カウンスルNo.7役員会主催WEBサイト立ち上げ研修会が、参加者30名で行われました。講師にITC-Jウェブサイト委員会加藤玲子委員長を迎え、情報発信について学び、その後は、インターネット環境さえあれば、ソフトもアプリもいらない、ジンドゥーサイトを紹介いただき、実際に各自の携帯やタブレット、パソコン内にある写真などの材料を使って、即席でクラブのホームページを作成する体験をしました。聞いてびっくり、見てびっくり、あら、簡単！はじめは無料部分で十分かも・・・凝り始めたら徐々に容量を増やして・・・PC内の写真を使って鳥取クラブのHP完成！スマホで倉吉クラブのHP完成？？

携帯からでもサクサク！




**170万ユーザーが利用
する最大級のホーム
ページ作成サービス**

たった3つのステップで洗練されたホームページが作れます

無料ホームページを作成

20 MILLION 2019年10月時点
利用ユーザー数
約200万超





アカウントを作成

アカウントを作成する

Facebook で登録 Google で登録

または

メールアドレス

パスワード



パスワードを共有すれば、仲間で作ることも可能！

加藤玲子委員長

素敵なデザインがたくさん！どれにしよう...

どんなホームページを作成しますか？



ホームページ

趣味からビジネスまで、ホームページであなたのアイデアを形に
ホームページをはじめる



ネットショップ

見た目のプロフェッショナルなネットショップで商品を販売
ネットショップをはじめる



ブログ

写真や動画をシェアしてあなたのストーリーを世界に発信
ブログをはじめる

レイアウトはあとから変更できます。またコンテンツも自由にカスタマイズできます。



TOKYO

ホームページタイトルを入れてください

Jimdoで簡単ホームページ作成！



MIAMI

Jimdoへようこそ！

文責・デザイン：廣田花江 会員委員長

ホットピックス

カウンスルNo.7 スピーチコンテスト優勝者

クラブでのスピーチの後に受けた非常に的を得た文書評価。なるほど・・・これを活かさなければ申し訳がないと、カウンスル大会に向けて出来る努力は全てして頑張りました。その結果の優勝なので、とても嬉しかったです。関係性の中に生き活かされる喜びを再確認できたカウンスル大会でした。クラブ代表として役割を与えられるのも励みになりました。ITC-J大会に向けて、再度頂いた文章評価を踏まえて準備したいと思います。

英語の部 優勝
柳田美奈子会員



日本語の部 優勝
小西協子会員

ITC-Jスピーチコンテストの出場が決まり、私自身とても驚いています。さりげない日常の中に、こういう思いがけない事もあるものだと感じています。与えられたこの機会を有難く思い、本番に向けて準備しようと思います。スピーチでは、最近亡くなった実母と義母のエピソードをお話します。自分の感じたことをありのまま伝えたいと思います。あたたかく応援して頂いているクラブ会員、カウンスルNo.7の皆様にご感謝いたします。

米子マンデークラブ 30周年記念例会 2019.5.13

30周年記念例会を終えて・・・



この度5月13日、米子マンデークラブは30周年記念例会に沢山の皆様にご出席頂き無事に終わることが出来ました。ありがとうございます。会員一同御礼申し上げます。マンデークラブは平成元年にスターして平成の終わりに30年を迎えました。平成の間皆様に助けられご指導を頂きながら前進して参りました。

いつの時代も初代会長の「新しい人の輪づくり」と云うテーマが根底にあり、一致団結する力は育っていると思います。又何事にも興味を持ち新しいことに挑戦する心意気もあります。これからもこの気持ちを忘れず令和の時代にも持ち続け各自の目標に向かって一層歩んでいきたいと思っています。この度の記念例会を企画し、実行した若いメンバーは着実に成長しているのを感じました。皆で一つの目標に向かっていくのは容易なことではありません。そこには叱咤激励や、寄り添うという心の優しさが重要です。コミュニケーションのあり方が大切です。

ザ・マンデース結成!

今、30周年記念例会を終えて米子マンデークラブのメンバーは次を目指して歩んで行こうと思っています。どうぞこれからも皆様の変わらぬご指導をよろしくお願い致します。

会長 三保聖諭子



Bulletin Board 掲 示 板

50歳からの出発 ～十指連心・気で描く～ 指画作家：濱田珠鳳氏

第3回会合は、米子在住の指画作家：濱田珠鳳氏をお迎えし、講演と指画実演をしていただきます。御年アラエイティにもかかわらず、年々益々活発に活動なさっています。昨年は秋の叙勲にて藍綬褒章を受章されました。指画とは、筆を一切使わず、指、手の甲、爪等で描き、作者の心感情がそのまま画面に伝わる、まさに「十指連心」という気迫のこもった画法です。濱田珠鳳氏は日本で唯一人、中国指画研究協会に外国人として初めて推薦登録された指画作家です。



《プロフィール》

- ・韓国・大邱府に生まれ。終戦により鳥取県日野町に引き揚げ。
- ・1987年中国・上海にて画家、伏文彦氏に師事。
- ・1999年中国指画研究協会に外国人として初めて推薦登録。
- ・2007年画集出版、号を珠鳳に改める。
- ・2008年BS-TBSにてドキュメンタリー番組「龍を描く女」全国放映。
- ・世界各国の国際展覧会に出品。フランス、カンヌ国際芸術賞他、数多く受賞。
- ・各方面に作品を寄贈。世界各国に指画紹介。全国各地で講演。
- ・各地の少年院において、篤志面接委員として指画指導。

新入会員紹介

鳥取クラブ 田村康悦会員



はじめまして。この度鳥取クラブへ入会いたしました田村康悦と申します。仕事で毎月出店している朝市で、私の祖父母と親しくしてくださっている浜村恵子さんからお声かけ頂いたのがきっかけです。例会に初めてゲストとしてお邪魔したときは、大先輩方と一緒にさせていただき緊張しましたが、皆様がとてもやさしく接してくださり、安心して入会を決めました。ほかの会とはまた違う視点の学びや気づきがあり、とても勉強になります。いろいろなことを吸収していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

米子マンデークラブ 植田百合子会員



平成最後の3月に米子マンデークラブに入会いたしました、植田百合子と申します。日頃からお世話になっている小酒萬喜子さんが「ちょっと見学に来てみたら」とお声をかけてくださり、好奇心と興味で覗かせていただきました。想像していたより、和やかな雰囲気の中にも緊張感があり、とても洗練された空間でした。皆様が自信に満ちあふれ、生き生きとお話される様子に、なんだか楽しそうだと感じました。仕事とは違う時間の中で、知るを楽しむ事は充実感と刺激を与えてくれます。これからの自分自身に、成長を期待しています。よろしくお願いたします。

倉吉クラブ 齋藤信子会員 6月例会で導入式の予定です

会員状況 会員数 2019.6.1 現在

鳥取	米子	倉吉	米子マンデー	出雲	とっとり砂丘	合計
24	13	31	18	31	20	137

編集後記

第3号をお届けします。若くて有能なスタッフに支えられ、和やかな雰囲気楽しく素晴らしい経験をした一年でした。仕上がってきたゴールデンリングをいち早く手に取って見ることができる喜びは、編集ならではの醍醐味でした。苦労が吹っ飛ぶひと時でもありました。会員の皆様のご協力にスタッフを代表して心より感謝申し上げます。



編集者 浜田一恵
編集スタッフ 竹川奈保子 柳田美奈子

ITC-J 宣誓 (Pledge)

**我々 インタラクティブトレーニング
イン コミュニケーション ジャパンのメンバーは、
世界中の相互理解促進のために、
コミュニケーション技術と 指導力の向上に
努めることをここに誓います。**

**We, as members of Interactive Training
in Communication-Japan,
hereby pledge to improve
our communication and leadership skills,
in order to achieve greater understanding
throughout the world.**